

日英交流400周年記念

インターネットや電子書籍の発達により、いまや書物をめぐる環境は劇的に変化しています。過去20年だけでも、国内外の出版事情は大きく変わり、紙の本の将来を危惧する声も少なくありません。そこで本講座では、中世から近現代に至る出版文化をテーマに取り上げ、その歴史と意義を考えます。なかでも日英交流400周年を迎えたことを記念し、日本とイギリスの「本の旅」にでかけます。外国からさまざまな知と技術を吸収し、独自の出版文化を育んできた日本とイギリス。出版都市として花開いた江戸とロンドン。第一線で活躍する書物史家たちが、日英出版の諸相について論を展開するほか、書物の魅力を知り尽くす愛書家による対談もお届けします。

講座内容

① 3時限目(13:00~14:30) ② 4時限目(14:45~16:15)
毎週土曜日開催

12/21	① 活版印刷文化のあけぼの 「全集」の誕生を探る	徳永聡子 慶應義塾大学文学部助教
	② 印刷文化史と文学の邂逅	林望・高宮利行 作家、慶應義塾大学名誉教授
2014年 1/11	① 江戸の出版文化に親しむ 京伝が描く本と浮世絵の世界	津田眞弓 慶應義塾大学経済学部教授
	② ジャーナリズムの起源と 近現代出版文化の黎明	原田範行 東京女子大学教授
1/18	① キリシタン版の研究からわかること 和書と洋書のあいだ	折井善果 慶應義塾大学法学部准教授
	② 日本の絵入本の歴史 絵本が出版されるまで	佐々木孝浩 慶應義塾大学水道文庫教授

募集要項

- 募集対象** どなたでも
会場 慶應義塾 大学日吉キャンパス内
受付期間 2013年10月21日(月)～各講座5日前まで(必着)
(第1回締切は12月16日、第2回締切は2014年1月6日、
第3回締切は1月13日)
- 受講料** 各回2,000円(全3回6,000円)(1日ごとの申し込みが可能です)
申込方法 教養研究センターWEBページのお申し込みフォーム
(<http://lib-arts.hc.keio.ac.jp/kouza/info/>)からお申し込み
ください。はがき、ファックス、E-mailをご利用の場合は、郵便番号・
住所・氏名(ふりがな)・年齢・性別・電話番号・職業・受講希望日
を明記の上、下記宛てにお申込みください。

申し込み受付後に、受講に関するご案内を郵送いたします。受講料は指定口座に納入していただきます。なお、受講料の納入をもって受講登録となります。

●受講者の方々にかかわる個人情報の取扱い

慶應義塾大学教養研究センター主催「キャンパス公開講座」受講に関する個人情報は、「キャンパス公開講座」を含む同センターからのお知らせのみに対して利用し、十分プライバシーに配慮し、慶應義塾ならびに講座運営の委託を受けた受託業者が適正かつ責任を持って適正に管理を行います。個人情報は、ご本人の承諾なしに第三者に提供することはありません。

慶應義塾大学教養研究センター

慶應義塾大学日吉キャンパス 公開講座 事務局
〒223-8521 横浜市港北区日吉4-1-1

Tel.045-563-3978 Fax.045-563-3979 E-mail h-ext2013@adst.keio.ac.jp

URL: <http://lib-arts.hc.keio.ac.jp/>

教養研究センター 検索

慶應義塾大学日吉キャンパス特別講座

【全3回】

出版文化史の東西

2013年
12月21日(土)
▼
2014年
1月18日(土)



(慶應義塾大学附属研究所水道文庫所蔵 『中しやうひめ』)

特別講座「出版文化史の東西」

第1回 2013年12月21日(土) 13時～16時15分

講師メッセージ：徳永聡子(文学部助教)「活版印刷文化のあけぼの——「全集」の誕生を探る」
図書館や書店、家庭の書棚にならぶ「全集」——その響きは書物に独特のオーラを与えます。こうした本の形態はどのようにして始まったのでしょうか？ 本講義では、活版印刷術揺籃期の書物文化に光を当て、ファクシミリや原本を用いつつ、イギリスにおける作品集出版の背景を探ります。(冒頭で本講座全体の概要についてもお話します。)

講師メッセージ：林 望(作家)・高宮利行(慶應義塾大学名誉教授)「印刷文化史と文学の邂逅」
東西の書物文化史においてエポック・メイキングな作品を取り上げ、文学作品の日英出版文化史を比較しようというのが、本講義の狙いです。前半では、『源氏物語』も含めて、我が国の「物語」作品等の古典文学をめぐる印刷文化史と、中世から愛読されてきたトマス・マロリー『アーサー王の死』の学術出版について、翻訳や校訂の実際に触れつつ概説します。対談形式の後半では、二人の楽しい書物談議をお楽しみください。

第2回 2014年1月11日(土) 13時～16時15分

講師メッセージ：津田真弓(経済学部教授)「江戸の出版文化に親しむ——京伝が描く本と浮世絵の世界」
江戸文化の形成と発展を支えた出版。1782年に刊行された山東京伝の出世作『御存商売物』(ごぞんじのしょうばいもの)には、江戸の町にどのような印刷・出版物があったか、それらが人々にどれだけ愛されていたか、余すことなく描かれています。江戸時代の本をそのまま読むと言うことは、江戸時代の人と同じ視界(紙面)を共有するということ。江戸に旅をして、草双紙という媒体の本質に触れます。

講師メッセージ：原田範行(東京女子大学教授)「ジャーナリズムの起源と近現代出版文化の黎明」
言論の自由を世界で初めて制度化したイギリスと、同時期におそらくはそれ以上の識字率を誇った江戸時代の日本——この二つを比較しつつ、ジャーナリズムを初めとする各種情報伝達のメカニズムが確立してくる近代印刷出版文化の諸様相と、こうした文書文化が今日の社会にまで与えている影響を、原物を使いつつ多角的にお話します。

第3回 2014年1月18日(土) 13時～16時15分

講師メッセージ：折井善果(法学部准教授)「キリシタン版の研究からわかること——和書と洋書のあいだ」
1590年長崎に陸揚げされたものの、幕府の迫害によりわずか四半世紀足らずで日本から姿を消したヨーロッパ式活字印刷機。その一瞬の煌めきの中で生まれた通称「キリシタン版」の研究の最新動向をご紹介しますながらその面白さに触れ、さらに一緒に考えてみたいと思います——果たしてキリシタン版は「和書」か、「洋書」か——?

講師メッセージ：佐々木孝浩(慶應義塾大学附属研究所斯道文庫教授)「日本の絵入本の歴史——絵本が出版されるまで」
江戸時代にはありふれた存在であった絵入版本は、日本の書物史上では大変奇異な存在でした。国宝『源氏物語絵巻』に代表される絵巻物と、現在のコミックスの先祖とも言える草双紙との間に、どのような関係と隔りがあるのかについて、豊富な画像を交えながら説明したいと思います。

お申込みは ①Fax ②ホームページ ③メールのいずれかをお願いいたします。

①Faxお申込書 (Fax: 045-563-3979) 2013年度日吉キャンパス特別講座 「出版文化史の東西」

ふりがな ご氏名:	性別: 男 ・ 女	ご年齢: 歳	
ご住所: 〒			
ご連絡先: <small>※TEL(自宅・職場・携帯)・FAX・e-mailなど連絡のとりやすいものを1つか2つお知らせください。</small>			
受講希望日 (受講を希望される日程に○をつけてください)	12 / 21	・ 1 / 11	・ 1 / 18

②ホームページでのお申込み <http://lib-arts.hc.keio.ac.jp/>

③メールでのお申込みは Fax 申込書の内容を明記の上、下記アドレスまでご送信ください。
e-mail: h-ext2013@adst.keio.ac.jp

慶應義塾大学教養研究センター 日吉キャンパス公開講座事務局 担当:木下
〒223-0064 横浜市港北区日吉4-1-1 TEL:045-563-3978 (※電話でのお問い合わせは平日9時～17時)